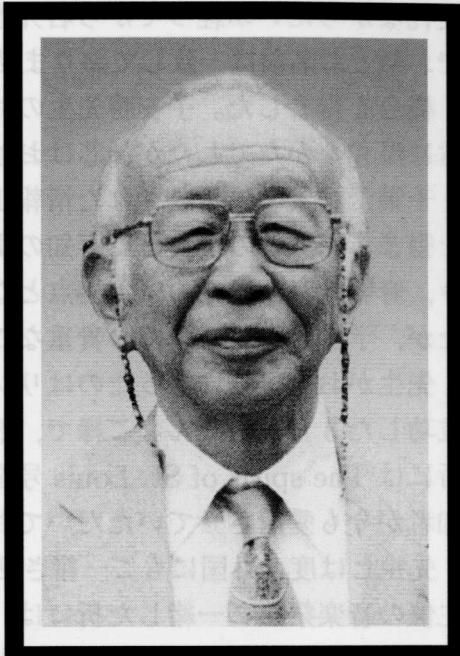


追 悼 文

子安勝先生のご逝去を悼む

山 崎 芳 男



本学会名誉会員、元会長の子安勝先生が2008年4月8日に逝去されました。享年81歳でした。先生はここ数年お加減を悪くされ、八重子夫人はじめご家族ご介護のもとでご療養に努めておられましたが、残念なお知らせをいただく結果になりました。

子安勝先生は、1927年5月18日に大垣市にお生まれになり、1947年に静岡高等学校理科をご卒業、東京大学第二工学部物理工学科に入学され、1950年3月に東京大学第二工学部物理工学科を卒業、財団法人小林理学研究所に入所されました。1952年4月から約4年間にわたって東京大学理工学研究所の助手を務められ、1956年7月に小林理学研究所に復帰され、1981年5月まで同研究所の主任研究員、音響材料研究室長、所長、理事等を務められました。

その後は(有)音響工学研究所を主宰され、1992年4月から1998年4月まで千葉工業大学情報工学科教授を務められました。また、1997年9月からお亡くなりになるまでは財団法人成田空港周辺地域共生財団の理事、航空機騒音調査研究所所長を務めておられました。

1961年6月には東京大学から「残響室法による吸音率測定に関する実験的研究」により理学博士の学位をお受けになりました。

日本音響学会においては1987年から2年間の会長をはじめ多くの役職を務められ、1992年には名誉会員に推挙されています。また、1976年の騒音制御工学会設立においても、先生は多大なご尽力をされ、初代の副会長に就任され、1984年～86年、1996年～98年の2期にわたって会長を務められました。

先生はまた音響関係学会並びに業界の指導、行政関係各種委員会委員、JIS作成等において指導的役割を果たされました。ISO/TC43(音響)の日本代表、国際騒音制御工学会(I-INCE)の理事など、国際的にも活躍されました。1988年のホノルルで開かれた2回目の日米音響学会ジョイントミーティングでは日本音響学会会長として、1994年に横浜で開催されたInter-noise 94では、Congress Presidentとして陣頭指揮をとられ、これら国際会議を大成功に導かれました。

先生は、音響学・騒音制御工学の研究分野で幅広いご活動をされました。特に音響材料、音響測定法等の分野では第一人者であられ、そのご功績に対して、日本音響学会佐藤論文賞(1966, 69, 74年)、騒音制御工学会の研究功績賞・論文(1996, 7年度)、同・業績賞(「騒音測定法並びに遮音吸音材料に関する一連の研究業績」、1998年度)が、1997年には環境庁長官より「環境保全功労者」が授与されています。

私は子安先生のお名前とあの柔軟なお顔は音響学会に参加するようになってすぐに知りましたが、

失礼ながらだいぶ経ってから石井聖光先生、橋秀樹先生の研究室で開かれた会合でご紹介いただきました。お顔とお名前は一致しておりませんでした。その後 ISO の委員会や学会の役員会等でご指導いただく機会を得ました。子安勝先生のお人柄については皆様既によくご存知のとおり、お優しい眼差しの常に温和な方でした。芯はお強く一徹な面もお持ちでした。

千葉工業大学に新設された情報工学科に思いもかけず子安先生とご一緒に参加させていただく機会を得ました。この学科はご存知のように城戸健一先生、三井田惇郎先生はじめ多くの方々のお力により、音響教育・研究の一大拠点となりました。私は子安先生の足を引っ張り、ご心配もおかげしましたが、学生と一緒に多くの貴重なご指導を直接いただきました。

先生がお生まれになったのはリンドバーグが The spirit of St. Louis 号で大西洋無着陸横断飛行に成功した 3 日前、そんなご縁で、飛行機にはめっぽうお詳しく述べ、お好きでした。還暦のお祝いの会の折には The spirit of St. Louis 号をあしらった七宝焼きのネクタイピンをいただきました。多くの参加者が今も愛用させていただいております。

先生とは度々外国にもご一緒させていただきましたが、1999 年にサマルカンドで開かれたユネスコ主催の音楽祭にご一緒した折には、めずらしい旧ソ連の飛行機に乗る機会があり、詳しいご説明をいただきました。このときは多くの参加者が水や暑さに負ける中、先生だけは最年長でありながら全く普段と変わらず多くの会議やパーティをこなされました。取材に来たテレビ局のインタビュアは先生にウズベク語で話しかけるほどでした。

千葉工業大学情報工学科の子安・山崎研は 7 年間という比較的短い間でしたが、151 名に及ぶ卒業生がご指導いただき、広く社会で活躍しています。毎年夏には子安先生がお声がけ下さり、多くの卒業生が先生の真鶴のご自宅に集まり、近くの川で釣りやバーベキューを楽しめていただき、その後ご自宅でご家族ぐるみのおもてなしでいたがるのが恒例になっておりました。先生の健康状態でしばらく中断しておりましたが、奥様から以前のように毎年来るようになるとおさそいをいただきましたので、今年は久しぶりに大勢でうかがって先生の思い出話をさせていただくなつもりです。

子安先生、永い間本当にありがとうございました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

略歴

日本音響学会名誉会員 子 安 勝
1927 年 5 月 18 日生まれ

履歴

1950 年 3 月 東京大学第二工学部物理工学科卒業
1950 年 4 月 (財)小林理学研究所入所
1952 年 4 月 東京大学理工学研究所助手
1956 年 7 月 (財)小林理学研究所復職
1965 年 8 月 (財)小林理学研究所主任研究員
1971 年 10 月 (財)小林理学研究所所長
1983 年 10 月 (有)音響工学研究所代表取締役
1992 年 4 月～98 年 3 月 千葉工業大学教授
1977 年～79 年 日本音響学会副会長
1983 年～85 年 日本音響学会副会長
1984 年～86 年 騒音制御工学会会長
1987 年～89 年 日本音響学会会長

1992 年 日本音響学会名誉会員

1996 年～98 年 騒音制御工学会会長

1997 年～2008 年 成田空港周辺地域共生財團理事、
航空機騒音調査研究所所長

受賞

日本音響学会佐藤論文賞 (1966, 69, 74 年)

「ポータブル残響計」(1966)

「残響室法吸音率の測定精度に関する研究 (1) 第 3 回協同比較試験と音場拡散条件の検討」(1969)

「線状音源に対する障壁の遮音効果—模型実験による検討—」(1974)

日本騒音制御工学会 20 周年功績賞 (1996 年)

日本騒音制御工学会功績賞 (論文) (1997 年)

環境庁長官より「環境保全功労者」(1997 年)

日本騒音制御工学会研究功績賞 (業績) 「騒音測定法並びに遮音吸音材料に関する一連の研究業績」(1998 年)